

# 学校法人菊武学園 中期経営計画

令和2年度～令和6年度

【5ヶ年計画】

「建学の精神に基く実践教育による人材の育成と各部門の自立に向けた部門改革」

## 1. 中期経営計画立案の背景と目的

### (1) 私学を取り巻く環境の変化

文部科学省は実効性のある大学改革をスピード感ある推進とするため「大学改革タスクフォース」を設置した。そして、「大学改革タスクフォース」における検討を経て、「大学改革実行プラン」を発表し、「私立大学の質保証の徹底推進と確立（教学・経営計画を実現の両面から）」を掲げ、学校教育法に基づき、教育の質保証をクリアできない私立大学に対しては、廃止、統合、連携せよとの命令権行使による厳しい措置で対応する方針を固めるなど、国主導による私学改革の大きなうねりが押し寄せてきています。私立学校としての教育事業の充実が図れない大学は学生募集にも支障をきたし、国の助成の枠組みに入れなくなり、今後の生き残りを自らの法人の財務体質改善などの自助努力に委ねざるを得なくなっています。また、情報公開が進む中、第三者による厳し評価・判断にも晒され、学校の存続自体もその評価・判断に委ねられて行くことになっていきます。

### (2) 中期経営計画策定の目的

学校法人菊武学園は、学園で働く教職員全員が学園の未来を信じ、新しい教育・経営ビジョンの実現を目指して実践活動を行い、設置する学校を建学の精神に基づき、主体的に学び、考え、行動する人材を育成する学校に転換させ、地域社会で必要とされる実践力を持った人材を育成するため「学校法人菊武学園中期経営計画及び中期事業計画（令和2年度～令和6年度の5か年計画）」を策定する。

本学園の中期経営計画は、5年後の本学園のあるべき姿を目指して、経営計画の基本方針（指針）を掲げ、5年間の基本目標・施策を示し、特に重点的に取り組むことが必要な分野について検討を行い、部門ごとに基本方針及び具体的施策を取りまとめて事業計画とし、その具現化に取り組み、各学校において、「地域の人材育成の拠点」としてのブランド力の向上に取り組んでまいります。

## 2. 中期経営計画の骨子

教育機関の競争力の原動力ともいえる教育・研究の質は、学校のマネジメント能力やガバナンスを拠所としている。従って、目指すべき方向性を示す明確な目標を中期経営計画として集約して教職員に示すことで改革をより効率的に進めることができることとなります。また、改革内容を年次計画により具体的に提示して内外に発信することにより社会的評価を獲得することが可能になる。

中期経営計画では、本法人の財務状況の改善に向け、5ヶ年に亘る中期事業計画を策定・実行し令和6年度までに基本金組入後の当年度収支差額の黒字化を目指し、基本方針と方策を以下のように定め、計画を策定する。

## 3. 学校法人菊武学園の中期経営計画基本方針とブランド力向上のための方策

### ① 教育力の向上

地域社会に根差し、職業教育を通じて地域社会に必要とされる人材の育成を推進する。

### ② 教育研究力の向上

地域課題解決に向けた教育研究活動を推進する。

### ③ 社会力の向上

教育・研究をとおしての地域貢献、教職員等人材の地域活動への参加を推進する。

### ④ 募集力の向上

学生・生徒・園児の入学定員100%以上獲得を目指した定員充足率の向上を推進する。

### ⑤ 経営力の向上

経営効率化、組織活性化による財政基盤の安定と計画の実行を推進する。

中期経営計画を実現させ、財政基盤の安定を図るためには、「募集力」の維持・強化が最も重要であり、募集力を強化するためにも「教育力」向上のための教育改革や組織活性化のためのガバナンス改革の取組みが重要となります。特に、幼稚園から大学院までを設置する「総合学園という学園全体の統一イメージ」を強調して発信するために、総合学園としての教育の特色を明確にし、地域社会に支持され「地域の人材育成の拠点」として持続発展すべく、地域社会に確固たる地位を築いていきたいと考えています。

中期経営計画は、2020（令和2）年度からのスタートとなりますが、長期ビジョン（小学校・中学校も併設する真の総合学園となる。）の達成のためにも、それぞれの計画に従い、その実現に向けて教職員一丸となって努力するとともに、計画そのものをより良いものに見直し、更に行動・確認・修正するというPDCAサイクルを定着させていくことが何より大切であると考えます。

一方、少子高齢化、国際化、情報化等により、これからの社会はこれまで以上に変化の激しい、厳しい時代が到来するものと予想されます。そこで、本学園の建学の精神「職業教育をとおして社会で活躍できる人材の育成」に基づき、しっかりと自らの足で立ち、他と強調しながら協働できる、社会で生きていく力と高いモチベーションを持ち、自分の将来を切り開いていくことができる人材の育成をしてまいりたいと考えています。

#### 4. 各部門の重点施策と事業計画

##### （1） 法人部門

法人部門における最大の目標は、構造改革等により経営効率化・組織活性化を図り財政基盤を安定化させるとともに教育環境を整え、部門の教育改革を支援し、地域社会に根差した学園として、地域に必要不可欠な学園とすることである。目標を達成するため以下を重点施策として定め、事業計画を策定する。

1. 経営効率化・組織活性化による財政基盤の安定化
2. 教育環境整備のための施設設備の計画的整備
3. 学園内姉妹校連携強化支援・部門の教育改革の実行支援
4. 地域密着化による地域・企業との連携教育支援

法人部門

	経営効率化による 財政基盤の安定化	教育環境整備 施設設備計画
具体的施策	1.ブランド力強化 2.外部資金を含む収入増加策 3.市場拡大 4.組織の再編 5.ガバナンス・リーダーシップの強化 6.職員の資質向上	1.学生の学習環境の計画的整備
令和2年度	1 大学専門職学科設置準備室の設置と基本計画書の作成 2 学生生徒納付金の見直し 3 高校・通信制課程の広域化の調査 4 戦略的新組織の設置検討 5 内部監査グループと監事の連携強化 6 責任と権限の見直し 7 監事の監査機能の強化 8 大学・短大との共同 SD 実施	1 施設・設備の老朽化への対応 2 既存施設の快適性・利便性の向上 3 将来構想を踏まえた施設・設備の検討
令和3年度	2 学生生徒納付金の改善検討 3 (調査・検討) 4 戦略的新組織の設置 5,6,7,8 (継続・改善)	1,2,3 (見直し・改善)
令和4年度	2、4 (見直し・改善) 3 (調査・検討) 5,6,7,8 (継続・改善)	1,2,3 (見直し・改善)
令和5年度	2、4 (見直し・改善) 3 (調査・検討) 5,6,7,8 (継続・改善)	1,2,3 (見直し・改善)
令和6年度	2、4 (見直し・改善) 3 (調査・検討) 5,6,7,8 (継続・改善)	1,2,3 (見直し・改善)

## 法人部門

	学園内連携強化 部門改革実行支援	地域連携支援
具体的施策	1 幼稚園・保育園と短大の連携 2 高校と短大の連携支援 3 高校と大学の連携支援 4 専門学校と大学・短大の連携支援	1 教職協働型の地域連携 2 学生・生徒・園児の連携 3 地域連携人材の育成
令和2年度	1 短大（子ども学科）と幼稚園・保育園の連携 2 短大（子ども学科・健康福祉学科）と高校（保育・福祉コース）との連携 3 環境教育等での大学と高校の連携 4 ビジネス教育等での連携検討	1 サービスラーニングでの連携検討 2 地域イベントへの学生・生徒・園児の参加 3 ボランティア活動
令和3年度	1,2,3, (継続・改善)	1,2,3 (継続・改善)
令和4年度	1,2,3, (継続・改善)	1,2,3 (継続・改善)
令和5年度	1,2,3, (継続・改善)	1,2,3 (継続・改善)
令和6年度	1,2,3, (継続・改善)	1,2,3 (継続・改善)

## (2) 教学部門

教学部門における最大の目標は、学修成果の保証であり、実社会へ実践力を持った人材をどれだけ送り出せるかである。教育の質保証と質の高い教育に裏打ちされた学生・生徒・園児の存在をアピールし、「入りたい学校」づくりを推進していかなければならない。それを実現させるためには、改革推進のための財政的自立が必要であり、FD,SDによる教職員のスキルアップも必要になってくる。目標を達成し地域社会において必要不可欠な学校となるために以下を重点施策として定め、事業計画を策定する。

1. 学修成果を保証するための教育力の向上
2. 教職員の資質向上
3. 教育・研究をととしての地域貢献、教職員等人材の地域活動への参加
4. 学生・生徒・園児の入学定員100%以上獲得を目指した定員充足率の向上

学校名：名古屋産業大学

「発展」をテーマとし、令和3年度の経営専門職学科新設を確実に成し遂げること及びそのためのFD・SD活動の活性化、特に組織力を活性化させ、新設学科の入学者募集活動の徹底・強化により既設学科の入学者150名以上、新設学科の入学者40名の確保を各年度の最重点事業とする。

	教育力の向上 (学修成果の保証)	教育研究力の向上 (教職員の資質向上)	社会力の向上 (地域貢献の推進)
具体的施策	1.教養知識の獲得推進 2.専門知識の獲得推進 3.社会人基礎力の獲得推進 4.実践力、愛情力の獲得推進	1.FD・SDの推進 2.実践的指導力の向上 3.競争的資金の取得 4.共同研究の推進 5.学会発表の促進支援 6.論文(査読あり)掲載の促進支援	1.地域と連携した実践型学修の実践 2.社会人を対象とした教育の充実 3.高大連携協定に基づく連携授業の実施
令和2年度	1.教養知識の獲得 2.専門知識の獲得 3.社会人基礎力の獲得 4.実践力、愛情力の獲得	1 定期的FD・SDの開催 2 実践指導力の向上 3 競争的資金の取得 4 共同研究の開催 5 学会発表 6 論文(査読あり)の掲載	1.インターンシッププログラムへの参加率向上 2.BTPの実施 3.履修証明プログラムの学部実施 4.履修証明プログラムの大学院実施 5.連携授業の実施
令和3年度	1~4の継続と見直し改善	1~6の継続と見直し改善	1~5の継続と見直し改善
令和4年度	1~4の継続と見直し改善	1~6の継続と見直し改善	1~5の継続と見直し改善
令和5年度	1~4の継続と見直し改善	1~6の継続と見直し改善	1~5の継続と見直し改善
令和6年度	1~4の継続と見直し改善	1~6の継続と見直し改善	1~5の継続と見直し改善

学校名：名古屋産業大学

	募集力の向上 (定員充足率の向上) (中途退学者数の減少)	施設設備計画 (教育環境の向上)	その他
具体的施策	1.入学者受け入れ方針の明確化 2.入学者選抜の改善 3.SNS による情報発信の充実 4.社会人の受け入れ 5.経営専門職学科の設置と入学者の安定的確保	1.学生の学習環境の整備	
令和2年度	1~4 (見直し・改善) 次年度入学者数目標 200人 経営専門職学科設置認可申請 当年度在籍者数目標 730人	1.スポーツヒルズ(運動場)整備 2.プロジェクターPCなど教教具更新 3.図書購入	
令和3年度	1~4 (見直し・改善) 次年度入学者数目標 200人 現代ビジネス学科 160人 経営専門職学科 40人 当年度在籍者数目標 740人	1.情報センターPC他機器リース更新 2.新学科用機器備品購入(設置経費) 3.新学科用含む図書購入 4.スポーツヒルズ整備	
令和4年度	1~4 (見直し・改善) 次年度入学者数目標 200人 現代ビジネス学科 160人 経営専門職学科 40人 当年度在籍者数目標 750人	1.プロジェクターなど機器更新 2.新学科用含む図書購入	
令和5年度	1~4 (見直し・改善) 次年度入学者数目標 200人 現代ビジネス学科 160人 経営専門職学科 40人 当年度在籍者数目標 760人	1.PCなど機器備品整備 2.図書購入	
令和6年度	1~4 (見直し・改善) 次年度入学者数目標 200人 現代ビジネス学科 160人 経営専門職学科 40人 当年度在籍者数目標 770人	1.機器備品整備 2.図書購入	

**学校名：名古屋経営短期大学**

「V字回復」をテーマとして、FD・SD活動を活性化させ、資格取得の強化と資格取得率の向上など各学科の特色・魅力作りと各学科の入学定員充足率の向上、特に子ども学科の募集強化を推し進める。

「進化」:令和2年度に開始するカリキュラムの特徴を最大限に発揮できる体制を構築する。

「自立」: 現行の3学科の入学定員の確保に加え、持続可能な短期大学としての発展を目指し、社会情勢や地域の人材ニーズに対応した新たな教育課程の編成、導入。また、自立に必要な施策に対する資源は、文部科学省、経済産業省、総務省などが公募する事業に積極的に参加し、獲得する。

「連携」: 地域連携、産学連携等をとおして社会との連携を深めると共に、教職一体となって、短期大学の質的な向上を図る。

	教育力の向上 (学修成果の保証)	教育研究力の向上 (教職員の資質向上)
具体的施策	1. 教学マネジメント体制の充実 2. 教育方法の改善 3. 教育内容の改善 4. 教育基盤の整備	1. FD・SDの推進 2. 実践的指導力の向上 3. 研究時間の猶予 4. 教員業績評価
令和2年度	1. 社会人基礎力の育成 2. 実践活動（学生が主人公となる活動）の充実 3. フィールドキャンパス構想の策定 4. 初年次教育、リメディアル教育の実施 5. キャリア教育（ビジネストレーニングプログラム）・マナー教育の実施 6. シラバスの充実とポートフォリオの活用 7. 学生の居場所づくりと教育CSRの実施	1. 定期的FD・SDの開催 2. 実践指導力の向上 3. 効率的業務や学内運営を図り、省力化を推進 4. 教員業績評価の実施
令和3年度	1~7の継続と見直し改善	1~3の継続と見直し改善 4の点検・評価
令和4年度	1~7の継続と見直し改善 海外インターンシップの開設	1~4の継続と見直し改善 5. 共同研究の実施
令和5年度	1~7の継続と見直し改善 海外インターンシップ先の拡充	1~5の継続と見直し改善
令和6年度	1~7の継続と見直し改善 海外インターンシップ先の更なる拡充	1~5の成果点検と評価



学校名：名古屋経営短期大学

	社会力の向上 (地域貢献の推進)	募集力の向上 (定員充足率の向上) (中途退学者数の減少)	施設設備計画 (教育環境の向上)
具体的施策	1.教育研究成果の還元	1.入学者適格審査の考え方に基 づく入試制度の改善・進化 2.高校訪問の効果的展開 3.大学広報の積極的展開 4.高大連携の強化 5.入学前教育の強化	1.学生の学習環境の整備
令和2年度	1.市民による特別授業や講師招聘 2.ゼミナール活動における相互エ ンパワメント 3.地元小・中・高等学校との共同活 動や交流	1~5 (見直し・改善) 次年度入学者数目標 200人 未来100 子ども50 健康50 当年度在籍者数目標 355人	講義室プロジェクターな ど教教具更新 PCなど機器備品更新 図書購入
令和3年度	1~2 など地域連携活動の強化 3.の継続と見直し改善	1~5 (見直し・改善) 次年度入学者数目標 200人 未来100 子ども50 健康50 当年度在籍者数目標 370人	講義室プロジェクターな ど教教具更新 空調設備更新 図書購入
令和4年度	1~2 など地域連携活動の強化 3.の継続と見直し改善 4.地域に向けた連携と地域発展に 向けた事業の展開	1~5 (見直し・改善) 次年度入学者数目標 205人 未来100 子ども50 健康55 当年度在籍者数目標 385人	講義室音響機器など教校 具更新 空調設備更新 図書購入
令和5年度	菊武保育ビレッジの準備 菊武コミュニティの準備 KEIEITAN事業の強化 3.の継続と見直し改善	1~5 (見直し・改善) 次年度入学者数目標 205人 未来100 子ども50 健康55 当年度在籍者数目標 410人	講義室音響機器など教校 具更新 空調設備更新 図書購入
令和6年度	菊武保育ビレッジの開設 菊武コミュニティの開設 3.の継続と見直し改善	1~5 (見直し・改善) 次年度入学者数目標 210人 未来100 子ども50 健康60 当年度在籍者数目標 440人	空調設備更新 図書購入

学校名：菊華高等学校

「V字回復」をテーマに300名の入学者確保を目標に、保育・福祉、スポーツ、アクトの実践教育強化、研究事業の強化、キャリア教育・インターンシップの強化、退学者数の半減を初年度の重点事業とします。

	教育力の向上 (学修成果の保証)	教育研究力の向上 (教職員の資質向上)
具体的施策	1.対話を中心とした授業展開と診断・到達テストデータから見る学力定着と向上 2.キャリア教育の充実	1.教員の授業力向上 2.建学の精神或いは校訓に基づく教育課程の構築 3.高大接続と連携教育の充実
令和2年度	1・3学期ベネッセの基礎診断テストの結果(GTZ)による復習 2学期リクルート到達度テストとスタディサブリの課題配信 年間13名以上の外部講師による講演や授業を実施	教育実践力の向上 リクルート・ベネッセによる年2回の授業力向上勉強会を行う インターンシップ参加者を100名から150名に増やす 家庭科のカリキュラム変更実施 保育福祉コースで短大との連携教育継続 レクリエーション講座は短大と理科実験講座は大学と連携教育を継続
令和3年度	毎年行っている朝読や小テストの改善提案と各種テストの分析と検討 毎年行っている外部講師による講演や授業の実施と分析・検討	外部講師による年2回の授業力向上勉強会と研究授業の充実 インターンシップと建学の精神との整合性の検証 短大・大学との連携教育継続
令和4年度	毎年行っている朝読や小テストの改善提案と各種テストの分析と検討の継続 新指導要領の導入によるキャリア教育プランの作成	外部講師による授業力向上勉強会の他、新指導要領の導入による新カリキュラム編成と建学の精神との整合性検証と行事案の作成 大学・短大・専門学校との連携検証と再構築
令和5年度	朝読や小テストの改善及び各種テストと新指導要領との整合性検証 新指導要領の導入によるキャリア教育プランの分析と検証	外部講師による授業力向上勉強会の他、新指導要領の導入による新カリキュラム編成の更新 アクティブラーニング拡大のための研究授業の導入 科やコース別の大学・短大・専門学校との連携の見直し
令和6年度	新たな対話を中心とした授業展開と診断・到達テストデータによる学力定着と向上 新キャリア教育プランによる外部講師による講演や授業の実施	外部講師による授業力向上勉強会の他、新指導要領の導入による新カリキュラム編成の更新 アクティブラーニング拡大のための研究授業の導入 科やコース別の大学・短大・専門学校との連携の検証と改善

学校名：菊華高等学校

	社会力の向上 (地域貢献の推進)	募集力の向上 (定員充足率の向上)	施設設備計画 (教育環境の向上)
具体的施策	1.域学連携教育の推進	1.入学者受け入れ方針の明確化 2.入学者選抜の改善 3.SNS による情報発信の充実	1.学生の学習環境の整備 2.学習の管理環境の整備
令和2年度	地域の清掃活動、県営の小幡緑地での植樹、市の環境局との CO2 授業、社会福祉協議会との福祉教育、警察との SNS や交通・地域安全教育、区や自衛隊・民間施設・地元中学校等との文化交流など地域貢献の推進	次年度目標入学者数 300 人 普通科 260 人 情報ビジネス科 40 人 当年度目標在籍者数 810 人	スポーツロッカー等機器整備 体育館屋根改修工事 卓球室・購入のエアコン設置 職員室 PC 更新 図書購入
令和3年度	1.活動内容の検証	次年度目標入学者数 300 人 普通科 260 人 情報ビジネス科 40 人 当年度目標在籍者数 800 人	60周年記念ステージ改修工事 視聴覚室のタブレット環境整備 運動場整備 情報室機器更新 図書購入
令和4年度	1.活動内容の改善	次年度目標入学者数 300 人 普通科 260 人 情報ビジネス科 40 人 当年度目標在籍者数 820 人	外部水銀灯の LED 化 本館教室改修工事 福祉実習室湯沸かし器設置 I T C 機器更新 図書購入
令和5年度	1.改善した活動内容の検証	次年度目標入学者数 300 人 普通科 260 人 情報ビジネス科 40 人 当年度目標在籍者数 830 人	南館教室改修工事 北館ピロティの環境整備 プロジェクター・I T C 機器更新 図書購入
令和6年度	1.活動内容の更なる改善	次年度目標入学者数 300 人 普通科 260 人 情報ビジネス科 40 人 当年度目標在籍者数 850 人	北館教室改修工事 情報室機器更新 I T C 機器更新 図書購入

学校名：菊武ビジネス専門学校

「就職・進学 100%保証」をテーマに、入学者 200 名以上を確保するための他校との差別化、就職・進学を 100%保証するための教員の資質向上・指導力強化、基礎力をつけさせるためのキャリア教育の導入、中途退学率の低率化を初年度の重点事業とします。

	教育力の向上 (学修成果の保証)	教育研究力の向上 (教職員の資質向上)
具体的施策	わかる授業で基礎学力を定着・向上させる カリキュラム、学習内容の整理 インターンシップ（職場体験）の実施	授業力（わかる授業）の向上 基礎学力の向上のための指導法 ICT、アクティブラーニング活用
令和 2 年度	学習評価（定期試験・再試合含む）の見直し 研究会・科会・部会の活性化 インターンシップ先決定	教育実践力の向上 学習評価の見直し 総合的探究の方針決定 ICT、アクティブラーニングの導入
令和 3 年度	見直し後の学習評価方法の実施 インターンシップの開始	プログラミング&アニメーションコース別授業開始 総合的探究の指導案完成 ICT、アクティブラーニングの検証
令和 4 年度	3 年生に就職・進学 100%保証実施 タブレット端末 1 人 1 台導入検討 インターンシップ先の増加検討	プログラミング&アニメーションコース内容の改良 ICT、アクティブラーニングの改善
令和 5 年度	3 年生に就職・進学 100%保証継続 タブレット端末 1 人 1 台導入 インターンシップ先からの内定者獲得	ICT、アクティブラーニングを年間コマ数の 50%実行
令和 6 年度	3 年生に就職・進学 100%保証継続 インターンシップ先からの内定者増加	新たな目玉教育の導入検討

学校名：菊武ビジネス専門学校

	社会力の向上 (地域貢献の推進)	募集力の向上 (定員充足率の向上)	施設設備計画 (教育環境の向上)
具体的施策	無理のない地域貢献  商業的活動（ショップ等）展開  社会人講師・大学教授の講座開講	入学者受け入れ方針の明確化  入学者選抜の改善  SNSによる情報発信の充実	学生の学習環境の整備
令和2年度	地域との連携  商業的活動の情報収集	次年度目標入学者数 200人 高等課程 180人 専門課程 20人  当年度目標在籍者数 385人	2・3号館男女トイレ設備充実 機能的な教室整備検討 体育館1の壁紙補修 (高濃度)PCBの処理
令和3年度	地域との連携強化	次年度目標入学者数 200人 高等課程 180人 専門課程 20人  当年度目標在籍者数 445人	1号館屋上防水工事 1号館火災報知器受信機更新 3号館耐震診断
令和4年度	ボランティア活動実施と内容定着	次年度目標入学者数 200人 高等課程 180人 専門課程 20人  当年度目標在籍者数 500人	2号館耐震診断
令和5年度	ボランティア活動内容の検証	次年度目標入学者数 200人 高等課程 180人 専門課程 20人  当年度目標在籍者数 510人	タブレット端末1人1台導入 3号館耐震工事 (低濃度)PCB処理
令和6年度	ボランティア活動内容の改善	次年度目標入学者数 200人 高等課程 180人 専門課程 20人  当年度目標在籍者数 510人	2号館耐震工事

**学校名：名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院**

「美力向上」をテーマに、3学科全ての定員充足を目標とした生徒募集の強化、特にトータルビューティ科の募集強化を初年度重点事業とします。

	教育力の向上 (学修成果の保証)	教育研究力の向上 (教職員の資質向上)	社会力の向上 (地域貢献の推進)
具体的施策	教育課程の改善 キャリア教育の充実	教員の授業力向上	地域交流活動の推進 地域イベントへの参加
令和2年度	新教育課程の実施 現状のキャリア教育の分析・検証	専門分野における最新の 情報収集 十分なインプットからア ウトプットへ	高齢者施設での美容ボランティア 学生施行の本物の結婚式 学生運営のフラワーショップ 学生運営のビューティサロン 今池ガスビルフラワーミニレッスン イオンモールモゾフラワーレッスン
令和3年度	新教育課程の検証・評価	授業研究 授業アンケートの実施	継続 学内外への広報
令和4年度	新教育課程の検証・評価	授業研究 授業アンケートの検証 授業改善の推進	継続 学内外への広報
令和5年度	新教育課程の検証・評価	授業研究 授業アンケートの検証 授業改善の推進	継続 学内外への広報
令和6年度	新教育課程の改善	授業研究の検証・評価	継続 学内外への広報

学校名：名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院

	募集力の向上 (定員充足率の向上)	施設設備計画 (教育環境の向上)
具体的施策	1.入学者受け入れ方針の明確化 2.入学者選抜の改善 3.SNS による情報発信の充実	1.学生の学習環境の整備
令和 2 年度	次年度目標入学者数 180 人 当年度目標在籍者数 315 人	教室改修工事 機器備品更新 (印刷機) ビル管理会社再選定 (凡そ 5 年毎) 立体駐車場改修
令和 3 年度	次年度目標入学者数 180 人 当年度目標在籍者数 315 人	教室改修工事 機器備品更新 (P C サーバー) 特定保守点検 (1 階小型湯沸器) リースアップ校用車更新 (カローラ) フロンガス 3 か年点検
令和 4 年度	次年度目標入学者数 180 人 当年度目標在籍者数 300 人	教室改修工事 機器備品更新 消防設備点検 (3 年毎) 外壁診断 (凡そ 10 年毎)
令和 5 年度	次年度目標入学者数 180 人 当年度目標在籍者数 300 人	教室改修工事 トータルビューティ科機器更新 リースアップ校用車更新 (パッソ)
令和 6 年度	次年度目標入学者数 180 人 当年度目標在籍者数 300 人	教室改修工事 P C 教室機器更新 フロンガス 3 か年点検 設置 30 年目電気設備更新

学校名：菊武幼稚園

「伝統の継承と発展」をテーマに、自信を持って小学校に進学できる子の育成と教員資質の向上を重点事業とし、保育園との差別化のための他幼稚園の分析、アンケートによる保護者満足度調査と分析を行い、入園者増につなげる。

	教育力の向上 (学習成果の保証)	教育研究力の向上 (教職員の資質向上)
具体的施策	「明るく元気に活動するよい子」 (徳) 仲よく遊ぶ子 (体) 心も体も強い子 (知) よく見よく聞く考える子  自信を持って小学校に進学できる子の育成	1.教育目標達成のために、諸活動の狙いを共有し、意図をもって行う 2.誰もが幼稚園教育・運営の当事者である意識を持つ。 3.個々の力を結集しチームで動く 4.研修を通して力量向上に努める。
令和2年度	1.稚園教育要領に基づき「生きる力」の基礎を育成する。 2.日常の教育活動を通して、「できた、分かった」という喜びを大切に、自己肯定感を高め自信を持てるようにする。 3.行事の充実を図り、体験活動を通して成就感を体得させる。	各研修への教員派遣 ・私立幼稚園連盟信任研修、2年目研修、3年目研修 ・教育課程講座 ・地区別講座 ・各種運動会研修
令和3年度	継続・見直し改善	継続・見直し改善
令和4年度	継続・見直し改善	継続・見直し改善
令和5年度	継続・見直し改善	継続・見直し改善
令和6年度	継続・見直し改善	継続・見直し改善



学校名：菊武幼稚園

	社会力の向上 (地域貢献の推進)	募集力の向上 (定員充足率の向上)	施設設備計画 (教育環境の向上)
具体的施策	地域イベントへの参加	保護者満足度調査 SNSによる情報発信の充実	1.学生の学習環境の整備
令和2年度	春日井まつりパレード参加 幼年消防クラブ発表 わいわいカーニバル作品展示	次年度目標入園児数 72人 当年度目標在園児数 209人	通園バス更新 園庭滑り台更新 給食用エレベーター改修
令和3年度	継 続	次年度目標入園児数 72人 当年度目標在園児数 209人	通園バスロケーションシ ステム導入 非常通報装置更新 園庭フェンス取替工事 園内照明LED化
令和4年度	継 続	次年度目標入園児数 72人 当年度目標在園児数 209人	園児用トイレ洋式化 講堂空調設備更新 防犯カメラシステム更新
令和5年度	継 続	次年度目標入園児数 72人 当年度目標在園児数 209人	緊急避難階段更新 組み立て式プール更新
令和6年度	継 続	次年度目標入園児数 72人 当年度目標在園児数 209人	職員室パソコン更新 電話機更新 園内放送設備更新

学校名：稲葉保育園

「感性豊かな子供～センス・オブ・ワンダー～」をテーマに、心身ともにたくましく、よく遊ぶ子の育成と職員資質の向上を重点事業とし、姉妹校（短期大学、幼稚園）、地域との連携強化、アンケートによる保護者満足度調査を行います。

	保育力の向上	職員の資質向上	社会力の向上 (地域貢献の推進)
具体的施策	養護と教育が一体となって豊かな人間性を持った子どもの育成	職務内容に応じて必要な知識を身につけるようにする。 職場内での研修の充実を図る 外部研修への参加の機会を作る	短大子ども学科、菊華高等学校との連携強化 地域との連携強化
令和2年度	健康な心と体を育てる 自立心を育て人と関わる力を養う 様々な環境に好奇心や探求心を持って関わる 言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う 豊かな感性や表現する力を養い 創造性を豊かにする	職場内での研修の充実を図る 外部研修への参加の機会を作る (愛知県主催の現認保育士研修への派遣)	七夕会、運動会、クリスマス等の行事 菊華高等学校の実習受け入れ 地域のごみゼロ運動参加
令和3年度	継 続	継 続	継 続
令和4年度	継 続	継 続	継 続
令和5年度	継 続	継 続	継 続
令和6年度	継 続	継 続	継 続